

『ダンス英単語辞典 & 協会の歴史』の本の出版・発行のお礼と、 その更なる PR

つばめ
燕のジョー

(1) お礼と現況……皆さま、残暑厳しき残りの夏を楽しんでおみえでしょうか？さて、本当に、例の爽やかな？告知（左下イラスト参照。2013年に告知）をしてから、わたくしのルーズさや、なんやかやの忙しさで、実に3年ほどの期間を経過しましたが、この



こんな爽やかな出版告知から、早や3年！！

度、今年の4月の終わり頃に、何とか無事に発

行の 暁^{あかつき}を迎える事ができまして、心配の電話やメールを頂きまして、多大なご心配と不安を感じさせました事等を深くお詫び申し上げます。また、発行を喜んで頂いた会員の皆様、早速、ご注文をして頂き、一応、最初の印刷分の

500冊は、“完売”となりました。そして、この度、更に400冊増刷の運びとなりましたので、深くお礼申し上げます。これには色々諸事情もございまして、この『辞典&歴史』の本の印刷・出版、取材などに、ほぼ130万円ほどかかっていますが、販売の際には、愛知県プロダンス・インストラクター協会・会員割引価格として、1冊2千円（定価は2,500円）販売なので、500冊完売した今としても、2,000円×500冊=1,000,000円という事で、30万円ほどの赤字になっているのです。勿論、最初から、収益事業として儲けようと思って企画したのではありませんから、ほぼ77%の製作費を回収できただけでも、手前味噌な言い方ですが、素晴らしい売れ行きです。（ただし、一部は、行事の景品としてプールしてあるので、精密に言うと、実質的に全部完売ではないので、微妙な点があります。）なので、この度、更に400冊の増刷をすると、この時点で初めて（ただし、これも全部完売したとしての試算ですが）30万円ほどの『黒字』として、収益を生む事ができるので、一応執行部としては、そのような判断に踏み切った模様です。私は燕のジョーとして、編集部とは、少し距離を置いているので、編集部、ひいては、愛知県プロダンス・インストラクター協会・理事会が、上記の様に判断したという事で、大元のアイデアを提供しているわたくし、燕のジョーとしては、とにもかくにも、この度、このような立派な装丁で、出版され、皆様のお手元に届けられた事を、この上なく嬉しく思います。皆さま、誠に、誠に、温かいご支援、ありがとうございました。心より、深く、深く感謝申し上げます。また、今後とも、収益率アップのために、増刷分の完売にも、何卒、ご協力宜しく願いいたします。ちなみに、この本出版の記事は、ダンスビュー誌8月号の46~47ページにも掲載され、大きな反響があります。

(2) 出版の意図……さて、多少ベタ？ではありますが、どうしてこの様な本を執筆しようと思ったのかと時々質問を受けますので、それを解説申し上げます。やはり、非常に心より真剣に、もっともっと世の中に社交ダンス（ボールルームダンス）や、他のカップルダンス（サルサやアルゼンチンタンゴ、リンディホップ、スウィングやキゾンバなど）を普及するためです。何と言っても、社交ダンスは、とてもマイナー（少数の人しかやっていないという意味）なレクリエーション、スポーツ、趣味、娯楽ですから、もっともっと流行するためには、そういう大元になる、使用語句やダンス関連英単語の、平易で、楽しく読めて、なおかつ正確な意味の勉強・習得が確実に保証される、楽しい読み物（本）が必要不可欠です。そういう本を、どうにかして著わしたいというのが、正直な原点です。

多少、回想になりますが、この『ダンス英単語辞典および愛知県プロダンス・インストラクター協会の歴史』の本の、大元になっているのは、ダンス会報に、わたくし“燕のジョー”が書いておりました、ダンスエッセー『ダンス英語の表記、意味、由来などについての一考察』^{たれたろう}ですが、最初『うんちく垂太郎』の名前で書いていた頃に、かなり文章のみで長く書いたので、愛知県プロダンス・インストラクター協会の田川敦詞理事^{たがわあつし}から、『たとい良い事が書いてあっても、こう長いと読みづらいし、面白く見えんもんな〜』というような意味の事を言われ、その時に、色々考え、面白く、注意を喚起するようなイラストを添付すれば、少しでも読んでもらえるのではないか？』と思い、今日のようなスタイルになりました。何せ、そういう意味で、田川理事には、本当に、この本の根底の、重要な部分に、非常な貢献をして頂いているので、お礼のしようもないほどのご指導と影響を受けています。田川先生、本当に深く感謝申し上げます。

また、このダンス関連英単語辞典を書く時に、どこまでの範囲の『ダンス関連英単語』

を収録するかにも葛藤がありました。と言いますのも、どうしても完璧に書き上げたい、重要な単語を漏れなく掲載したいのでという事で、最終的には、総数 1,600 語という、気の遠くなるような数の単語を収録しました。本当は、更に、ダンスの衣装関連（例えば、ドルマン・スリーブ等のアパレル用語）、音楽関連（ギロなどのラテンの楽器の名前…もっともこれらのラテン楽器の名称は、英単語ではありませんが…）単語などを大幅に入れて、当初 2,300 語ほどに膨らんでしまいましたが、こうなると、ページ数も 400 ページを越えて、とても 50 万～100 万円の印刷代金^{まかな}では、賄いきれなくなりました。なので、結果的には、1,600 語という範囲で、同時に、当然と言えば当然なのですが、時を同じくして、



WDSF の組織が、新しい教本（教科書とか参考書的な解説書）をワルツからヴィニー

ズワルツ、ルンバからジャイブまでの 10 種目全部を発行しましたので、やはりそれらの関連単語も、当然、時流から言えば、掲載するのがベターですから、100 語以上収録されております。執筆当時は、まだワルツ、タンゴ、ルンバ、チャチャチャ、スロー フォックストロット位の日本語訳本しか出ていませんでしたので、残りの種目に関しては、英語の原書を取り寄せての翻訳という事になりました。

さて、しばしば『この 1600 語というのは、どういう範囲ですか?』と尋ねられますが、一応、テクニックブックに掲載されている、足型の名称は全部網羅=カバーし、更に、中級の足型の教科書（やや古いのですが）と言われている『ポピュラー・バリエーション』に掲載されている、スタンダード、ラテン両方の足型の名称解説も、ほぼすべて網羅しております。また、CBMP とか、ヒール・プルなどの、ダンスの技術専門後も全部収録し、更には、カシュクールとかディナー・ジャケット、プレタ・ポルテなどの、ダンスの衣装に関連する英単語も、かなりの数掲載しております。そして、上記にも言及した様に、WDSF の新教本に登場する、技術用語、新規の足型名なども全て網羅していますから、要するに、現時点で、ほぼ全部のダンス関連語をまるっと丸ごと、ぜ〜〜〜んぶ、収録・掲載してあるという事です。

(3) 皆様の知らない単語……さて、皆様は、次の単語を聞いて、意味がすぐにお分かりですか？ヒップ・デザイン、エクストリーム・トウ、フラメンコ・セクション、ミニ・ハイライト、オープン・オポージング・ポジション、エクステンディッド・オープン・ポジション、レフト・アングル・ポジション、アンティバージョン、レトロバージョン、オーバートールド・ベイシック（足型名）、ヒール・プル・フィニッシュ（足型名）、ビフォア・フット・ポジション、ボディ・リカバリー、ライトネス、サドゥン・ムーブメント、エクステンション、ランニング・クロス・シャッセ（足型名）、ジャンピング・ジャイブ、シュガー・プッシュ（足型名）、リリーシング・スウェイ、コスメティック・スウェイ、ミニ・ファイブ・ステップ（足型名）……。これらはダンスビューやダンスファン誌の、技術講座や足型解説などで、度々登場する単語です。そして WDSF の教本に掲載されている、ダンス技術関連の英単語で、どちらかと言えば WDSF 派閥的な競技会や、組織、団体で使用される単語なので、知らないなら知らないままで済んでいくとも言えますが、ダンスファンやダンスビューなどのダンス雑誌を見ると、いっぱい登場しますので、生徒さんからの質問が、度々来そうな単語です。そして、アマチュアの競技選手は、特に、こういう WDSF 系の踊りを好んで取り入れますから、もちろんプロの先生としては、当然知っているべき単語ばかりです。これから色々なダンス・シーンで、多く聞かれるので、頑張って意味くらいは知っておきましょう。しかし何も心配不要です。この『ダンス英単語辞典』をご覧頂ければ、全て、ものの 20 分ほどで把握できますので、鬼に金棒（表現が古い??!）です。（なので、そういう意図から、WDSF の教本に登場する、技術単語は、平易なモノから、理解が難しいモノまで、全て漏れなく、今回出版の『英単語辞典』に収録してありますので、ご安心下さい。）

ただし、今現在、多少“政治的”な思惑があります。皆様もご周知かどうか、今現在、

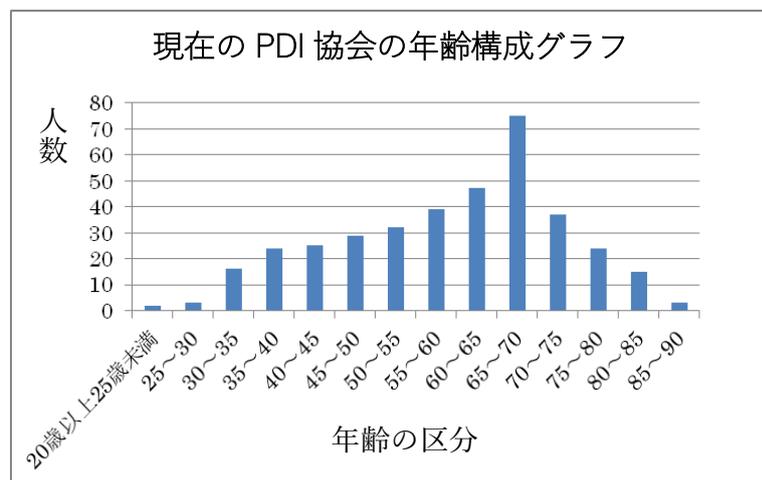
混乱しておりました、(公財)日本ボールルームダンス連盟は多少落ち付いて、以前のように、世界的な組織のWDCと提携して活動する方針を採択しつつあるので、ダンスのオリンピック参加や、競技会の採点方式の更なる明確化などを模索して、上記のように新教本を発行しているWDSFとはちょっと距離を置く事になりました。となると、例えば、これらのWDSF教本の勉強会を開催するのも、何となく^{はばか}憚られます。WDSFの教本は、技術書としては、斬新でとても素晴らしい記述になっています。と言いますのも、英国の技術書は、かなり以前からの物が改訂を加えられて踏襲されていますが、英国らしい伝統として、その著述者が存命の内は、プライドを重んじて、大きな改定をしたり、書き直さないという様な伝統があるのです。それで、今回のWDSFの新教本は、あまりそういう伝統と無関係に、今までの数10年の集大成とも言えるべき、技術用語の改良、追加、足型も^{はや}流行り^{すた}廃れ^{ふるい}の篩にかけての改訂を行なっています。(と言っても、やはり古来の伝統を重視していますので、ベーシック・フィガーとして採用されている足型は、95%は現行通りです。)なので、財団の方針が、WDSFと仲良くしないからという政治的理由で、これらのステキな新教本の勉強会も、何となく差し障りがあるという雰囲気があります。しかしこれは、何と言いますか、第2次世界大戦中の、英語は敵性言語だから、勉強したり使用したりすることは厳禁!という様な規制を思い出させて、とても時代遅れと言うか、間違った意識と思えます。

(4) 説明すること《知識の伝達》の難しさ……わたくしが、学生時代ダンス部で、ルンバを初めて習った時に、先輩達は、いつでも『234(1)、234(1)』という掛け声で踊っておいででした。もちろんダンスの先生ならばご周知のように、ルンバは、第1拍目を休むので、掛け声のカウントとしては、2から突然^{とな}唱え始めて、しかも、1はステップが無いのですから、言わない場合もあるし、唱えたとしても、41を、『フォー・ワン』ではなくて、『フォワン』みたいに、半分省略して唱えます。なので、何の予備知識も無かった当時のわたくしとしては、ルンバのカウントは、『ツー・スリー・フォワン、ツー・スリー・フォワン』と聞こえ、なぜ、ツーから始めるのか? という不思議さもさる事ながら、何をおいても、前記の様に『ツー・スリー・フォン、ツー・スリー・フォン』という風に、3個の掛け声の連続に聴こえて、『ルンバって3拍子なのか?』と真剣、思ってしまいました。これは私が、ただ単純にアホだったからかもしれませんが、ことほど左様に、知らない人に、何かを伝える(例えば、ダ



ンスのレッスンをするとか…) という事は、かなり難しいのだという実例です。つまり、本当ならば、ルンバを全く初めて習う段階の人には、いきなり『2341, 2341』などという掛け声は聞かせずに、①ルンバは4拍子で、1234とカウントする。②しかし、一番強いビートの1は、ステップせずに、ヒップ・アクションに使い、ステップするのは、2、3、4の3ビートなので、通常『2、3、4 (1)』などと数える。(そういう事を踏まえて本当は、ちゃんと『1、2、3、4』という風に、1を強く唱えて、しかも1からカウントする習慣にしたい。) という様な事を、最初の段階で、キチンと“伝達”しておかないといけない訳です。そう言うしっかりしたレッスンがなされれば、今の様に、すぐ音楽に外れたり、また、本当は、カウント1の強拍が聴き分けられているのに、そこをわざわざカウント2と唱え直すような誤解を信じている生徒が出現しにくくなるでしょう。この様に、ルンバの音楽のレッスンにおいても、私たち教師にとって当たり前の事でも、それを全然知らない初めての生徒さんに、キチンと“伝達”するのは、かなり難しい事なのです。なので、なお一層、普通のきちんとした技術や知識伝達のためにも、(普通のまじめなダンス技術用語辞典は、やや敬遠される傾向になるので) このように、イラストを使用して、とことん平易に、分かり易く書いたつもりですので、まだ未購入の方は、騙されたと思って、**何卒1冊、ご購入を強くお勧めいたします。**

(5) 愛知県PDI協会の歴史部分に関して、及び訃報と黙祷……わたくし燕のジョーも多少執筆に関わりましたが、ダンス英単語辞典の最後のパートに収録の『愛知県プロ・ダンス・インストラクター協会の歴史』部門には、10数名のダンス界の重鎮の先生の取材記事が書かれています。これは、ひとえに、三井健司会長の提言によるもので、一つの大きな



転機として、この様な“歴史”の掲載は、本当に心底、三井会長の“慧眼”^{けいがん}と言いますか、辞典と並列で、そういうものを作りなさいと指令された点が、非常に素晴らしいと思われます。しかしここで悲しいお知らせを皆様にお伝えしなければなりません。この歴史部門で取材した、重鎮の先生がお二人、この夏にご逝

去なされました。横井^{よこい} 茂^{しげる}先生と久泉^{ひさいずみ} 一春^{かずはる}先生です。謹んで、ここにご冥福をお祈り申し上げます。皆様、黙祷！！

この様に、昭和20~40年頃に教室を開業され、そして現在を迎えられた先生がたは、一つの時代を生き抜き、これからやむなく廃業されたり、又は息子さん先生等の次世代の経営者に譲られたりして、一つの過渡期を迎えられていらっしゃるの

ういう先生方の若い時代のエピソードや生き^{ざま}態を取材して、記事にするのは非常に有意義な事ですから、何もこの『ダンス英単語辞典』併記の協会の歴史部門に記載するだけではなくて、例えば、そういう重鎮の年輩の大先生と、ランチを囲んで、40～50分ほど、先生のお話を拝聴してから、一緒に昼食を囲む“ランチ&トーク・パーティ”などの企画も、協会で開催されていると聞いております。また重鎮の先生とかではなくて、一般会員も、あまり懇親会や研修会以外に参加する行事が無いので、たまには、(アマチュアのダンスサークルがよく開催する、ワンコイン=500円パーティを模倣して)協会の開催するワンコイン・パーティ、もしくは、協会主催だから、少し格調高く1,000円くらいの参加費で、PDI協会の一般会員の先生が100人ほど参加されるパーティを、わたくし個人の気持ちとしては開催したいです。参加者は、競技選手とか教室オーナーや各組織の理事とかではなくて、ごく普通の一般PDI会員が、来場したアマチュアの一般ダンス愛好者と踊るという事で、そういうダンスを長時間踊って楽しみたいという、PDI会員も実は結構いらっしゃるのではないかと思いますので、そういう企画も理事会で協議してもらおう予定です。ちなみに、前ページのグラフは、現在(平成28年8月31日現在)の愛知県プロ・ダンス・インストラクター協会の、会員《370名在籍》の年齢構成区分を表現したグラフです。多分JDCの方が、年齢構成は若いと思いますので、JDCに負けない様に、皆様、頑張りましょう！！

(6)『ダンス英単語辞典、および協会の歴史』本の申込書

氏名	様	連絡先 (住所や電話)	
購入希望冊数	2,000円×	冊=	円
希望の の送り先 (自宅とか教室)	〒 _____	携帯 電話 番号	

☆2,000円の割引価格になるのは、愛知県プロ・ダンス・インストラクター協会の会員の特典です。アマチュアの生徒さんなどの、一般ダンス愛好者や、他団体のプロには、2,500円の定価販売となります。

☆尚、郵送時に、まことに申し訳ありませんが、『着払い』となり、送料は受け取り時に購入者の負担でお支払い下さい。また、本の代金は、同封の書類に記載されている口座に2週間以内にお振り込みください。何卒ご了承ください。

申込 FAX 0566-83-9494

(イケダダンススクール 清水清美先生)